

平成30年度

学校自己点検・評価報告書

令和元年8月

筑波研究学園専門学校
自己点検・評価委員会

■「学校関係者評価委員会」について

筑波研究学園専門学校は、「工業分野」「商業実務分野」「教育・社会福祉分野」の3つの専門課程の認可を受け、専門的知識と技術とともに、高い教養を有する人間性豊かな人材を育成し、地域社会の発展と文化の向上に寄与することを目的として運営しております。

平成19年12月に学校教育法が改正され、4年制大学や短期大学と並んで専門学校においても学校評価制度が義務付けられました。本校では、平成18年度に「自己点検・評価委員会規程」を制定し、平成19年度より「自己点検・評価」を実施してきました。

また平成26年度からは文部科学省の「職業実践専門課程の認定」を受けたことを踏まえ、一層「学校運営の適正化」と「教育内容の充実」を図るため、「学校関係者評価委員会」を活用しています。

■平成30年度 学校自己点検・評価について

1. 対象期間 平成30年 4月 1日 ～ 平成31年 3月31日

○委員会開催 第1回 (令和元年5月8日) 第2回 (同 6月5日)
第3回 (同 7月3日) 第4回 (同 8月7日)

2. 実施方法

(1) 実施組織：「校内」自己点検・評価委員会

○委員長 柿崎 明人 学校法人筑波研究学園 理事長
筑波研究学園専門学校 学校長

委員 勝村 正巳 筑波研究学園専門学校 ものづくり学科長・経営情報学科長
杉山由紀夫 筑波研究学園専門学校 自動車整備工学科長
原 智 樹 筑波研究学園専門学校 建築環境学科長
横瀬 和子 筑波研究学園専門学校 医療情報学科長
大森 淳子 学校法人筑波研究学園 法人企画部
筑波研究学園専門学校 こども未来学科長
吉川 勝 筑波研究学園専門学校 教務部次長
木我 直樹 筑波研究学園専門学校 事務部次長
野口 孝之 学校法人筑波研究学園 法人企画部長
筑波研究学園専門学校 副校長
赤羽根隆之 学校法人筑波研究学園 法人企画部顧問
志賀 宏 学校法人筑波研究学園 法人事務局長

(2) 評価基準：文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」に準拠しています。

(3) 評価方法：授業アンケート、教員自己点検・評価、各学科及び部門の自己点検・評価をもとに、自己点検・評価委員会を開催し、学校自己点検・評価を取りまとめています。

3. 評価の項目

- (1) 教育理念・目標
- (2) 学校運営
- (3) 教育活動
- (4) 学修成果
- (5) 学生支援
- (6) 教育環境
- (7) 学生の受け入れ募集
- (8) 財務
- (9) 法令等の遵守
- (10) 社会貢献・地域貢献

4. 評価項目に対する評価

- (1) 各項目について、次の4段階を基準とし、点数を0.5刻みで評価しています。

4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

(小数点表示は評価者の平均点を記載)

- (2) それぞれの「評価項目」については〔現況〕を、
特記すべき項目については〔課題・検討事項〕、〔改善・進捗状況〕を記載しています。

1. 教育理念・目標

No	設問	評価点	現況
1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	4.0	設立趣旨「産学協同」に基づき明確に定められている。各専門分野が産学連携を通して実践的な人材育成を行うことである。
2	専門分野における職業教育の特性は明確か	4.0	
3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3.0	職業実践専門課程認定学科として職業教育の定着を目標としている。
4	学校の理念・目的・育成人材像・職業教育の特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	3.5	学則、学校案内、ホームページ、広報誌等で公開している。学生・保護者には、入学前のオープンキャンパスや合格者説明会、入学後の各期オリエンテーション、保護者会等で周知している。
5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3.5	業界団体・連携企業等からの意見、教育課程編成委員会での審議を受け適宜見直している。

【課題・検討事項】

- 3 学校法人の中長期的な計画として、社会情勢や地域社会のニーズ、今後の18歳人口の推移を踏まえ、5年後、10年後の学校の姿を予測した将来構想の再構築が一層必要である。
- 4 各学科の活動状況を明確にし、総合専門学校としての特色ある職業教育の一層の周知が必要である。

【改善・進捗状況】

- 3 学校の将来構想は全職員の創造的な課題とし、各々の立場で検討している。
- 4 在校生や保護者、卒業生等からの評価は高く、入学者につながっている。さらに在学生の満足度の高い教育活動の実践を心掛けている。

2. 学校運営

No	設問	評価点	現況
1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	3.5	健全な学校法人運営、職業実践専門課程の定着等の基本事項を直近の運営方針、事業計画としている。
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	3.5	
3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3.0	寄付行為、学則、決裁規程等に基づいている。
4	人事、給与に関する規程等は整備されているか	3.5	法人本部で取り纏め、事務室、教員室で閲覧可能である。
5	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3.5	上掲3参照
6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3.5	就業規則に服務規律として定めている。
7	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3.5	ホームページや広報誌等で公開している。また、専門学校の基本情報は法令に基づき公開している。
8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3.0	全部門で情報システム、ネットワークシステムを導入している。

【課題・検討事項】

- 1 2 理事会・評議員会より、将来構想と中長期的な計画が必要との指摘を受けている。
- 3 昨年度の課題であった業務の形骸化については決裁システムの見直しを行ったが、さらに決裁規程の改訂が必要である。
- 7 今後、高等教育機関としてさらなる情報公開が求められるため、公開資料の整備を進める。
- 8 システム障害時への対応について改善が必要である。

【改善・進捗状況】

- 1 2 学校法人・学校の将来を見据えた運営方針、中長期的な将来構想の具現化を進めている。
- 3 決裁規程の改訂に加え、教職員への周知、決裁前の事前相談の徹底を図っている。
- 7 令和2年度の情報公開に向け、教員組織の詳細、教育内容、授業計画（シラバス）の各資料の整備を進めている。なお、授業計画（シラバス）は今年度後期より公開予定である。
- 8 クラウドサーバーの導入を含め、システム管理の在り方を再検討している。

3. 教育活動

No	設問	評価点	現況
1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3.5	各学科の教育課程は学校の教育理念（産学連携による職業教育）に沿って編成するよう、学則第14条、教育課程編成委員会規程で定義している。
2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3.5	各学科の教育課程は、職業教育の視点に立った教育到達レベルや学習時間を確保し体系的に編成し、適宜見直しを行っている。
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3.5	
4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3.0	将来の職業が明確な学科では、企業実習等の産学連携授業の導入、外部関係者を交えた教育課程の編成・見直しが行われている。一方、資格取得を第一目標としてきた学科では産学連携体制が十分とは言えない。
5	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3.0	
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3.5	産学連携による学内演習・実習は全学科で実施している。今後、インターンシップは一層の推進を図っていく。
7	授業評価の実施・評価体制はあるか	3.5	全学科で授業改善アンケートを実施し、授業方法の点検・総括を行い、教育課程や授業方法の改善に活かしている。また、一部の学科では、授業見学や研究授業等を通して指導法の向上に努めている。
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3.0	上掲4・5参照
9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	3.0	学則にて明確に定めている。また、国家資格の養成校などの認定学科においては各省庁で定められた基準を遵守している。
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3.5	各学科が目標とする免許・資格は教育課程に体系的に位置づけるとともに、放課後等に対策授業を実施するなどの指導体制を構築している。
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3.5	専門分野に精通した人材を教員として採用している。また、学科では教員要件を設定し、教員一人ひとりが自己研鑽に励むことを重視している。
12	業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3.5	各専門分野に産学連携担当を配置し、就職支援、連携授業の実施計画を行っている。
13	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための取り組みが行われているか	3.0	業界や企業等と連携し、専門分野の最新情報に関する研修を実施している。また、業界団体等主催の研究会等への参加、企業訪問等を積極的に実施している。
14	教職員の指導力育成や能力開発など資質向上を目指した研修等が行われているか	3.0	指導力向上を目指した教員研修、教員のキャリアステージに則った資質向上への取り組みを実施している。

【課題・検討事項】

- 1 産学連携授業は実施方針を学科毎に策定しているが学科間に多少の温度差が見られる。
- 4 5 6 資格取得を第一目標としてきた学科では職業教育を体系的に位置づけていかなければならない。
- 8 外部関係者からの評価・意見聴取は、産学連携の実施状況により学科間の格差が見られる。
- 9 教員により評価基準が大きく異なるケースが見られる。
- 1 3 1 4 自己研修に励むための環境整備、教職員の指導力向上を目指した研修等が必要である。

【改善・進捗状況】

- 1 各学科では、産学連携授業の実施方針を策定し、学科間の共通理解を図り、学生に周知する。
- 4 5 6 早急に業界研究、他校調査を実施する。その結果を踏まえ、教育課程編成委員会で意見聴取を行い、教育課程に反映させていく。また、職業教育の視点で人材育成像を明確にして、企業実習等の連携授業を体系的に位置づけていく。
- 8 教育課程編成委員会以外の外部関係者から意見聴取ができるよう、産学連携授業の充実、卒業生の就職先企業との連携を図る。また、学校関係者評価委員会の評価を改善に活かしていく。
- 9 学科内及び科目担当者間の到達目標について見直しを行い、成績評価の適正化を図る。その上で、評価基準が大きく逸脱する場合は、その原因を明確にし、授業方法、指導方法の改善に繋げる。
- 1 3 1 4 学科の教員要件を設定し、教員は目標を立て自己研鑽に努め、学校全体の指導力向上に向けた研修を継続する。

4. 学修成果

No	設問	評価点	現況
1	就職率の向上が図られているか	3.5	毎年95～99%台を推移しており、30年度は97.5%であった。各学科に産学連携担当を配置し、学科長・担任とともに指導を実施している。
2	資格取得率の向上が図られているか	3.5	各学科の目標資格は教育課程に位置づけ、受験時期に合わせたカリキュラムとなっている。また、課外授業として資格取得に向けた特別講座等を実施している。
3	退学率の低減が図られているか	3.5	問題を抱えた学生には早い時期より保護者と連携し対応している。また、対応には担任以外の教職員も関わっている。なお、メンタル的な問題、経済的事情を抱えた学生には教務・事務部門による支援を行っている。
4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3.0	卒業生や卒業生の勤務先企業等と連携している学科では、キャリア形成を意識した教育内容の改善に繋がっている。在校生の状況は担任が把握しており、必要に応じて校務会議で報告がなされる。
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	3.0	

【課題・検討事項】

- 3 メンタル的な問題、経済的事情を抱えている学生は早期退学となる傾向が強い。これらの学生への支援体制の強化（教務部・事務部）が必要である。
- 4 5 学校全体で見た場合、卒業生の動向把握は十分とはいえない。

【改善・進捗状況】

- 3 遅刻・欠席が目立つ学生への早期対応、対応が難しい学生には担任だけでなく複数教員で関わることを徹底する。また、メンタル的な問題、経済的事情を抱える学生には、今後も継続して部門（教務部・事務部）が連携を図っていく。
- 4 5 各学科で行う企業訪問等を通して、卒業生の活躍状況、採用側からの評価を把握することに努める。また、教育課程への意見や提案を聴取し、キャリア教育の充実を図っていく。

5. 学生支援

No	設問	評価点	現況
1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4.0	専門分野毎に専門性の高い進路指導を行う産学連携担当者の配置、学校全体の情報集約と公開、閲覧する部署として進路情報室を設置している。
2	学生相談に関する体制は整備されているか	3.5	学生指導（含学生相談）は、担任以外の学科教員（状況に応じて部門長）も関わり指導にあたることとしている。
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	3.5	学生支援機構等の公的支援制度の窓口を設置し相談会、個別対応を実施している。また、学校独自の奨学金制度、学費減免・分割納付制度を整備している。
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3.5	保健室の設置、学校医（かかりつけ医）の専任、学生健康診断の実施等、専門学校設置基準に沿って学生の健康管理を行っている。
5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	3.5	部・同好会活動、行政等の公的機関主催の地域連携活動に積極的に参加している。
6	学生の生活環境への支援は行われているか	4.0	学生食堂の他、クラス毎の教室割当、談話スペースの設置等、施設の充実を図っている。その他、「一人暮らし応援サポート」「スクールバス運行支援」等がある。
7	保護者と適切に連携しているか	3.5	保護者会（五籃会）組織の他、機関誌送付、就職相談会等を開催し学校と家庭との連携を図っている。個々の学生指導は、担任が保護者との連携を図り、状況に応じて学科長や教務部が関わり対応している。
8	卒業生への支援体制はあるか	3.5	同窓会組織（輝峰同窓会）、キャリアアップ支援がある。
9	社会のニーズ（社会人受入）を踏まえた教育環境が整備されているか	3.5	学生募集要項や学則（入学前履修に関する規程等）で定めている。
10	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4.0	高校生向けの職業教育は、高校で行う分野別ガイダンス、本校に来校する学校見学会等などで積極的に行っている。

【課題・検討事項】

- 3 分割納付制度は利用者数が多いものの、未納状態となる家庭も多く対策が必要である。
- 9 現時点においては在職者向けの長期履修制度や夜間授業開講等には対応していない。

【改善・進捗状況】

- 3 学費分納制度については、入学前からの学費納入計画の相談支援、分納手続き、入学後の納入管理を徹底していく。また、事務担当者間の連携を十分に図っていく。
- 9 在職者向けの長期履修制度や夜間授業開講等の対応は現時点においては難しい。しかし、学科毎に行っている卒業生のキャリアアップ支援も含め、社会のニーズに合わせた短期講座の開講を進めていく。

6. 教育環境

No	設問	評価点	現況
1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	3.5	各学科の専門教育に必要な施設・設備は指定基準を満たしている。しかし、学科によっては設備の老朽化が見られる。
2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3.0	学外実習やインターンシップ、外部講師による学内実習等の教育体制と整備状況は学科により大きく異なる。
3	防災に対する体制は整備されているか	4.0	土浦消防署の指導の下、年次消防計画・防災組織等を整備し、全校（学生・教職員）避難訓練を毎年実施している。また、施設の耐震化は法令の定める基準をクリアしている。

【課題・検討事項】

- 1 設備の老朽化が見られることから対応が必要である。
- 2 教育体制の整備状況が十分でない学科について外部連携授業の構築が必要である。

【改善・進捗状況】

- 1 各学科の専門教育に必要な設備等の導入や更新は優位性を考慮した上で、十分協議し、計画的に進める。
- 2 新たに学外授業（現場実習やインターンシップ等）を導入し、業界団体との連携を図りながら受入機関の確保に努める。

7. 学生の受け入れ募集

No	設問	評価点	現況
1	学生募集活動は、適正に行われているか	3.0	高校ガイダンスやオープンキャンパスからの出願率が極めて高く、入学広報室と学科とが連携して募集活動にあたっている。
2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3.0	オープンキャンパスや高校ガイダンス等、専門分野に関わる内容は学科に委ねている。
3	学納金は妥当なものとなっているか	3.5	他校調査等を行い適切に設定している。また、金額は、学生募集要項、ホームページ等にて明示している。

【課題・検討事項】

- 1 入学広報室、各学科では各々の立場で独自の募集活動を行っているが、今後は双方の連携を一層強化していく必要がある。
- 2 改めて各学科の教育成果の整理と精査が必要である。

【改善・進捗状況】

- 1 入学対策委員会を編成し、入学広報部と各学科との連携を強化し、オープンキャンパス参加者を部門・学科双方からフォローしていく。
- 2 各学科では、「学科」は一つの『学校』という意識で、学科の主体性、教員一人ひとりの当事者意識を重視する。また、業界ニーズ、学科の人材育成目標、職業実践専門としての実績等の整理を行っている。

8. 財務

No	設問	評価点	現況
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	2.5	学校法人全体の財務基盤は安定しているとは言い難く、財務状況・事業収支等、抜本的な見直し、再構築が求められる。
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	2.5	
3	財務について会計監査が適正に行われているか	4.0	監査は適正に行われている。また、監査役からは財務改善に向けたアドバイスをいただいている。
4	財務情報公開の体制整備はできているか	4.0	職業実践専門課程等の指定基準で求められる財務情報を公開している。

【課題・検討事項】

- 1 2 本校（筑波研究学園専門学校）の財務基盤は楽観できないものの概ね安定している。しかし、事業譲渡による成田つくば航空専門学校の受入れから財務状況が改善できず、法人全体の経営を圧迫しているため、早急の対応策が必要である。

【改善・進捗状況】

- 1 2 18歳人口の減少、熾烈な学校間競争等、学校経営を取り巻く環境は一層厳しさを増す中、安定経営の再建に向け、学科別・部門別・費目別等、具体的な財務改善を図っている。一方で、収入基盤である学生確保に向け、これまで以上に全学協力体制で取り組んでいるところである。

9. 法令等の遵守

No	設問	評価点	現況
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3.5	法令遵守に留意し、学校教育法、私立学校法、専修学校設置基準等に基づいた学校法人、学校運営を行っている。また、監督官庁である茨城県総務部総務課私学振興室への届出は遅滞なく実施している。
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3.5	法令及び個人情報管理規程に則り、学内情報の管理を実施している。
3	自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3.0	自己点検評価は、教員、学科、部門毎に実施し、課題と改善に対する共通認識をもって取り組むこととしている。
4	自己評価結果を公開しているか	4.0	評価結果は報告書として閲覧可能な状況になっており、ホームページに掲載するなど広く社会に公表している。

【課題・検討事項】

- 3 教職員、学科、部門とも一次・二次・最終評価の三段階評価とした。しかし、二次評価を行う学科長・部門長の評価基準が様々である。

【改善・進捗状況】

- 3 学校長、副校長、学科長、部門長で組織する校務会議メンバーの管理者向け研修が必要である。なお、教員自己点検・評価には「キャリアステージ（勤務年数、職層）に応じた点検項目」を追加し、教員の資向上が図られるよう改善を試みている。

10. 社会貢献・地域貢献

No	設問	評価点	現況
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4.0	検定試験会場、各種団体への施設貸出等を実施している。
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3.5	こども未来学科の学生のボランティア活動を支援している。
3	地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	4.0	ハローワークが行う「公共職業訓練」講座を常時開講し受講生の就職活動を支援している。

【課題・検討事項】

- 2 ボランティア活動は、地域社会への貢献ばかりでなく、学生の人格形成や職業意識の向上に繋がるものと考えられる。こども未来学科以外の各学科においてもそれぞれの専門分野に関わりあるボランティアを奨励、支援できる体制づくりが求められる。

【改善・進捗状況】

- 2 ボランティア活動に向かうことのできる人材の育成を教育活動に積極的に取り入れていく。